

モニターレポート(11月報告)

【報告内容①】

10～12km左岸の堆積土砂について
かつて、左岸の湾曲部に溜まる土砂を知りましたが、7月豪雨から一段と堆積土砂が多くなっているようです。

〈事務所からのコメント〉

大阿賀橋上流左岸は、湾曲部の内側で土砂の堆積しやすいところです。ご報告のとおり、7月豪雨により堆積土砂が多くなっています。土砂の堆積が多くなると河川の流下能力が小さくなり出水時に危険になりますので、現在流下能力を確保するために河道掘削を実施しております。

【報告内容②】

阿賀野川では今、どの様な魚が採れ、食用には適するのかと考えました。

〈事務所からのコメント〉

日本海に注ぐ他の川と同様、阿賀野川で採れる魚については、サケやマス、アユ、シジミなどの漁が行われています。朝早いと、阿賀野川に小さな漁船が沢山浮かんでいる光景を目にすることがあります。

【報告内容③】

右岸横雲橋から安田方面へ堤防を車で通ってみました。河口より19kmくらいの所にゴルフ練習している方がおられました。ここも大雨の豪雨の時は大変だったけど、復興できてよかったと思いました。

〈事務所からのコメント〉

ゴルフの練習をしていた人がおられたようですが、恐らく阿賀野市が管理する阿賀野川総合運動場で練習をしていたものと思われます。

※複数のモニター報告を要約してあります。

【報告内容④】

11月29日(火):羽下大橋(木の橋)の川原で大根を洗っている人を見かけます。数日前も晴れている日に見かけました。冬野菜の季節には、水道代の節約になるし、このような川の水の使われ方もあるのだと感心して見ました。

〈事務所からのコメント〉

以前は川と生活が密着しており、様々に利用されていました。見かけられた大根洗いも日本の原風景を残しているようです。大根洗いのできる河川環境を大切にしていきたいと思えます。

【報告内容⑤】

イベントに参加しましたのでご報告致します。

日時:平成23年10月29日(土)10:00~15:00

【第7回 ”阿賀野川ものがたり”阿賀野川と共に生きたあの頃~風土と歴史が織りなす光と影~】

まとめ:印象に残ったのは、「地元プレゼンテーション」のパネリストの発表は、地味ではあるが地元根付いた内容であった。これからは、地域の未来を切り拓くために、地場産業が様々な取り組みを模索中であった。

〈事務所からのコメント〉

「阿賀野川え~とこだより」によると、「阿賀野川え~とこだプロジェクト」は「阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。」とあります。

また、「阿賀野川え~とこだ!憲章(事業理念)」には、「阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。」とあります。

地域再発見講座での地元プレゼンターを始めとする地域の皆様の活動によって、阿賀野川を軸とした「新しい地域づくり」を目指す「阿賀野川え~とこだプロジェクト」の活動が盛んになるようにと思えます。

※複数のモニター報告を要約してあります。